

2026年3月期 第1四半期

決算補足説明資料

2025年8月12日

証券コード:3741

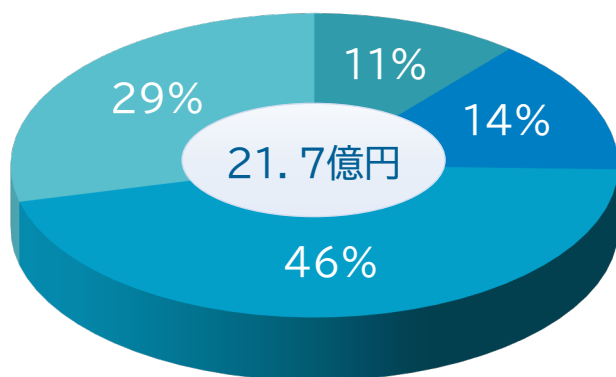


2026年3月期 第1四半期

決算概要

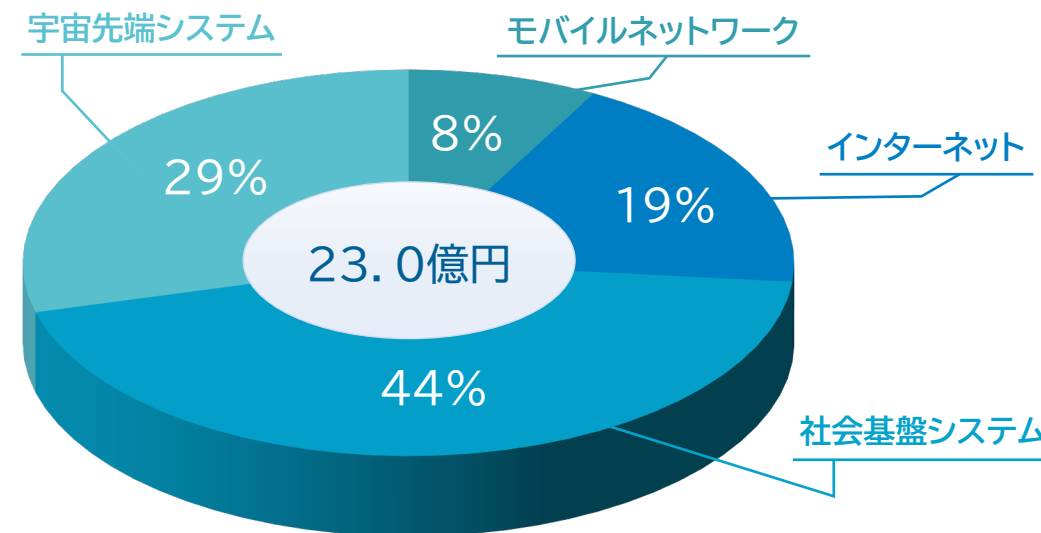
事業環境

IT需要は全体的には概ね堅調



2025年3月期第1四半期

需要構造の変化に応じ
柔軟に対応



2026年3月期第1四半期

モバイルネットワークBF

スマートコンストラクション関連の開発が引き続き堅調であるものの、全体としては減少傾向が継続

インターネットBF

非接触IC関連の開発が増加したことに加え、民間企業向けのDX関連の開発も増加

社会基盤システムBF

官公庁向けの開発が減少し、防衛分野や交通分野の開発が増加したものの、全体構成比では減少

宇宙先端システムBF

車両自動走行の研究開発案件が堅調であることに加え、宇宙天文分野の開発が増加

2026年3月期第1四半期総括

売上高は過去最高、営業利益、経常利益は過去2位
前年同期比で増収減益

	当期（百万円）	前年同期比	利益率
売上高	2,300	105.6%	
営業利益	290	81.4%	12.6%
経常利益	322	84.5%	14.0%
当期純利益	222	84.3%	

受注高、受注残高ともに過去2位

	当期（百万円）	前年同期比
受注高	2,587	74.4%
受注残高	6,548	92.7%

先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

官公庁向けの開発が減少した一方で、非接触IC関連の開発、防衛分野や交通分野の開発が増加するなど、需要構造の変化に全BF最適化の視点で対応した。

売上高は過去最高となったが、社会基盤分野の一部の案件で採算が低下したことなどにより、営業利益、経常利益は過去2位となり、増収減益となった。

受注高、受注残高とも、前年同期の医療分野の大型長期案件の受注の反動で減少し、過去2位となった。

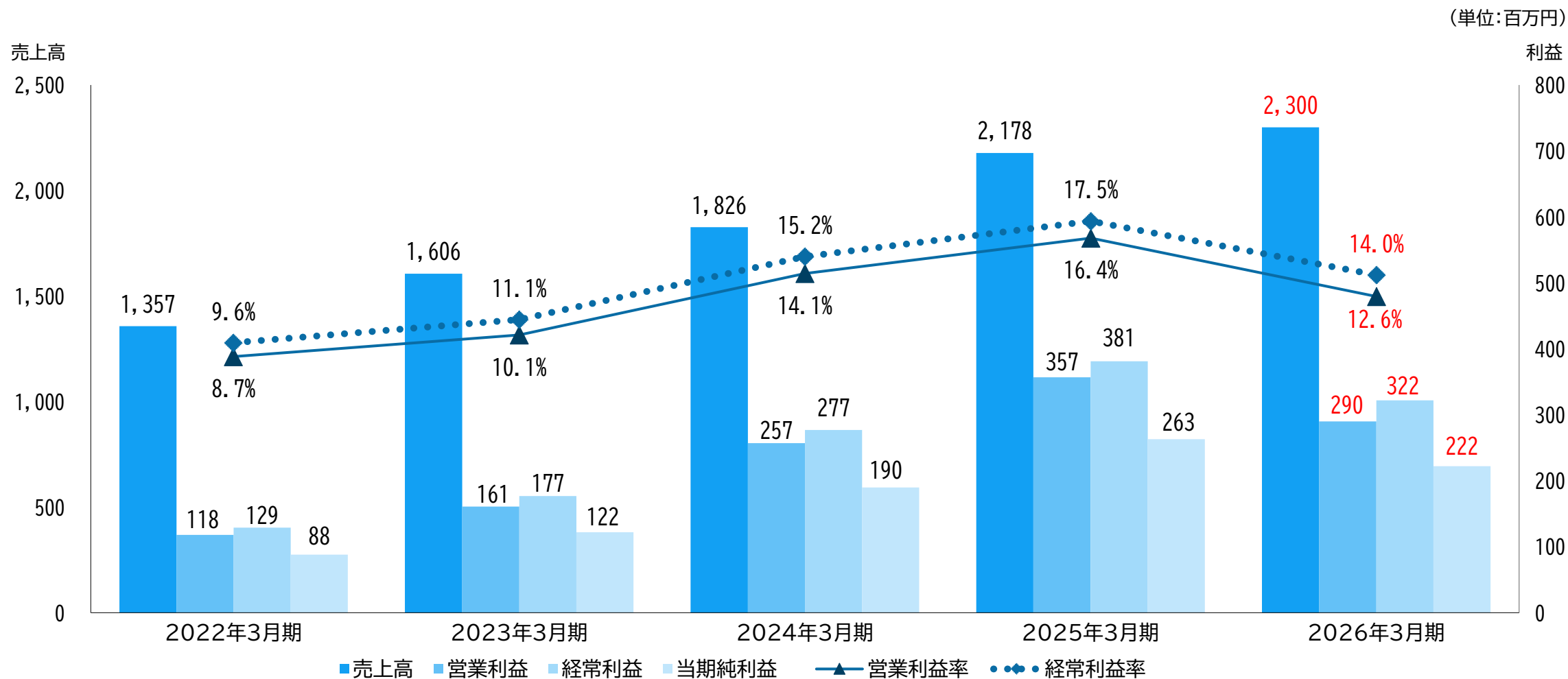
第1四半期損益計算書

	2025年3月期第1四半期 (百万円)	2026年3月期第1四半期 (百万円)	前年同期比 (%)	期初予想 (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	2, 1 7 8	2, 3 0 0	1 0 5. 6	—	—
売上原価	1, 5 0 9	1, 6 4 6	1 0 9. 1	—	—
売上総利益	6 6 9	6 5 3	9 7. 7	—	—
販売管理費	3 1 1	3 6 3	1 1 6. 4	—	—
営業利益 (営業利益率)	3 5 7 (1 6. 4%)	2 9 0 (1 2. 6%)	8 1. 4	—	—
経常利益 (経常利益率)	3 8 1 (1 7. 5%)	3 2 2 (1 4. 0%)	8 4. 5	—	—
当期純利益	2 6 3	2 2 2	8 4. 3	—	—

- 売上原価** 外注費が大幅に増加（外注費 8.7億円、前年同期比14.3%増／売上高外注比率38.1%、前年同期比2.9%増）、定期昇給・ベースアップにより人件費が増加
- 販売管理費** 新入社員の増加、定期昇給・ベースアップにより労務費が増加、研究開発費は45百万円で、前年同期比で47.5%増
- 営業外損益** 研究開発の補助金収入が大幅に増加（14百万円、前年同期比70.4%増）

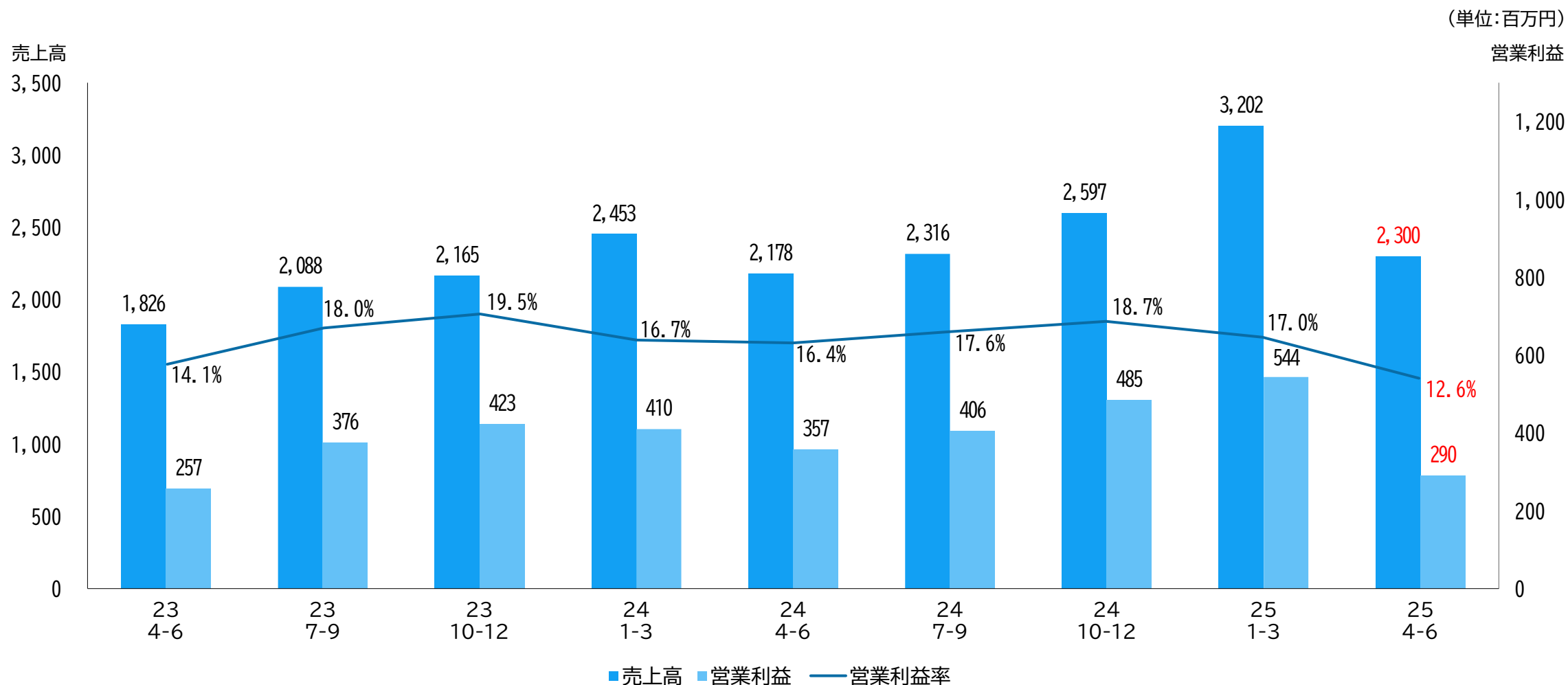
第1四半期決算業績推移(過去5年)

売上高は過去最高、営業利益、経常利益、当期純利益は過去2位



四半期業績推移(PL)

2021年度第3四半期から、15四半期連続の増収となったが、当四半期は減益となった

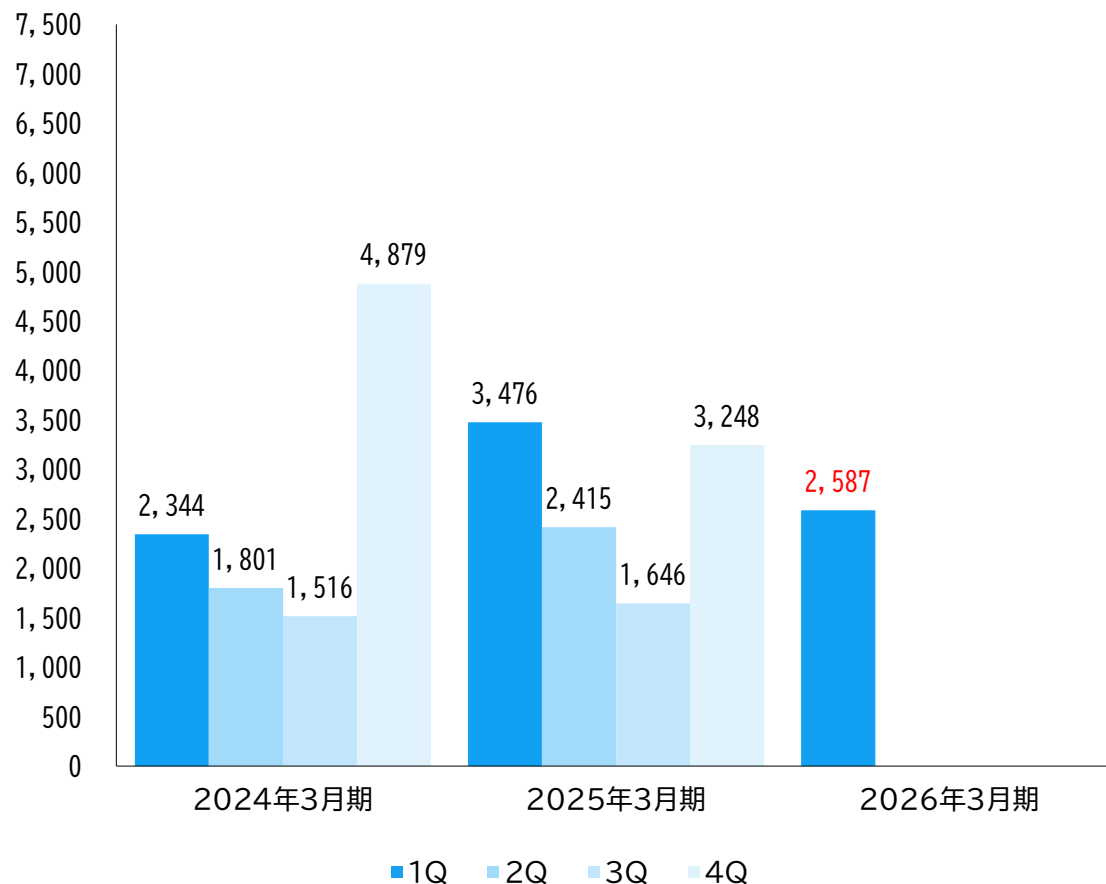


四半期業績推移(受注状況)

受注高、受注残高ともに前年同期の医療分野の大型長期案件の受注の反動で減少し、過去2位

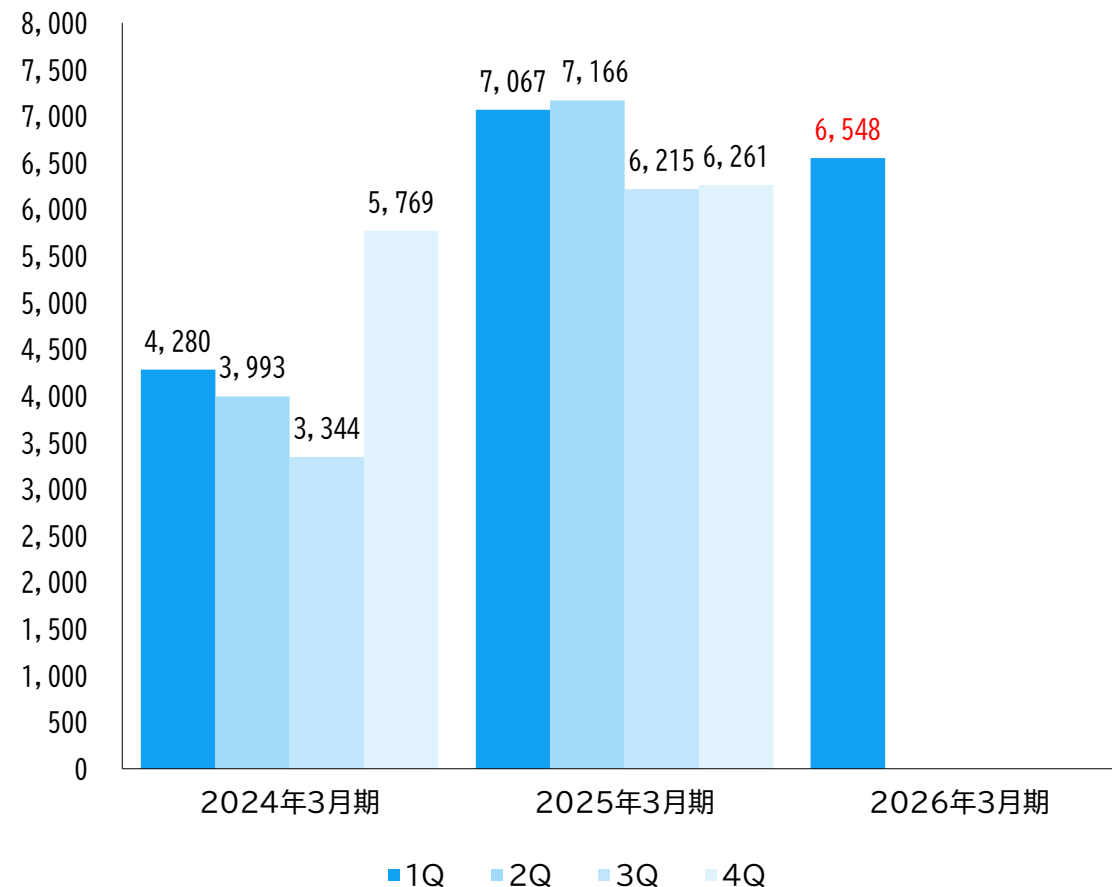
(単位:百万円)

受注高



(単位:百万円)

受注残高



第1四半期BF別の状況

インターネットBF、宇宙先端システムBFが売上高、構成比ともに増加

ビジネスフィールド	2025年3月期第1四半期		2026年3月期第1四半期		前年同期比 (%)
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	
モバイルネットワーク	242	11.1	183	8.0	75.8
インターネット	311	14.3	427	18.6	137.1
社会基盤システム	996	45.7	1,019	44.3	102.3
宇宙先端システム	628	28.9	669	29.1	106.5
合計	2,178	100.0	2,300	100.0	105.6

- モバイルネットワークBFは、スマートコンストラクション関連の開発が引き続き堅調であるものの、全体としては減少傾向が継続
- インターネットBFは、非接触IC関連の開発が増加したことに加え、民間企業向けのDX関連の開発も増加
- 社会基盤システムBFは、官公庁向けの開発が減少したものの、防衛分野や交通分野の開発が増加
- 宇宙先端システムBFは、車両自動走行の研究開発案件が堅調であることに加え、宇宙天文分野の開発が増加

第1四半期BF別受注状況

インターネットBF、宇宙先端システムBFが大幅に増加したが、社会基盤システムBFは前年同期の反動で大幅に減少

ビジネスフィールド	2025年3月期第1四半期		2026年3月期第1四半期			
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	前年同期比 (%)	受注残高 (百万円)	前年同期比 (%)
モバイルネットワーク	210	203	169	80.6	165	81.3
インターネット	300	312	482	160.4	484	155.2
社会基盤システム	2,454	5,782	1,208	49.2	5,022	86.9
宇宙先端システム	510	770	726	142.3	876	113.8
合計	3,476	7,067	2,587	74.4	6,548	92.7

※ 受注残高のうち、今期売上貢献分は4,786百万円(前年同期比8.1%増)、来期以降売上貢献分は1,762百万円(前年同期比33.2%減)

- モバイルネットワークBFは、移動体通信事業者向けの受注が減少
- インターネットBFは、非接触IC関連や民間企業向けのDX関連の受注が増加
- 社会基盤システムBFは、前年同期の医療分野の大型長期案件の受注の反動で大幅に減少
- 宇宙先端システムBFは、宇宙天文分野の受注が増加

2026年3月期

通期業績見通し

2026年3月期業績見通し

4-6月期は増収減益となったが、7-9月期に向けて利益面は回復見込みであり、業績予想は据え置く

	2025年3月期実績(百万円)	2026年3月期業績予想(百万円)	前期比(%)
売上高	10,295	10,700	103.9
売上原価	7,224	7,470	103.4
売上総利益	3,070	3,230	105.2
販売管理費	1,277	1,390	108.8
営業利益 (営業利益率)	1,793 (17.4%)	1,840 (17.2%)	102.6
経常利益 (経常利益率)	1,893 (18.4%)	2,010 (18.8%)	106.1
当期純利益	1,344	1,395	103.8

売上高 前期と同様の需要環境を見込み、官公庁主体の社会基盤分野のビジネスを中心に推進し、前期比約4%増を見込む

売上原価 社員数増加や、定期昇給に加え大幅なベースアップによる人件費の増加、仕入高の増加などにより、増加を見込む

販売管理費 新入社員の増加などによる労務費の増加、研究開発の増加などにより、増加を見込む

営業外損益 研究開発の補助金収入の増加などにより、増加を見込む

当期純利益 前期は賃上げ促進税制の適用により増加したが、今期は税金費用を法定実効税率どおりで計算

2026年3月期BF別業績見通し

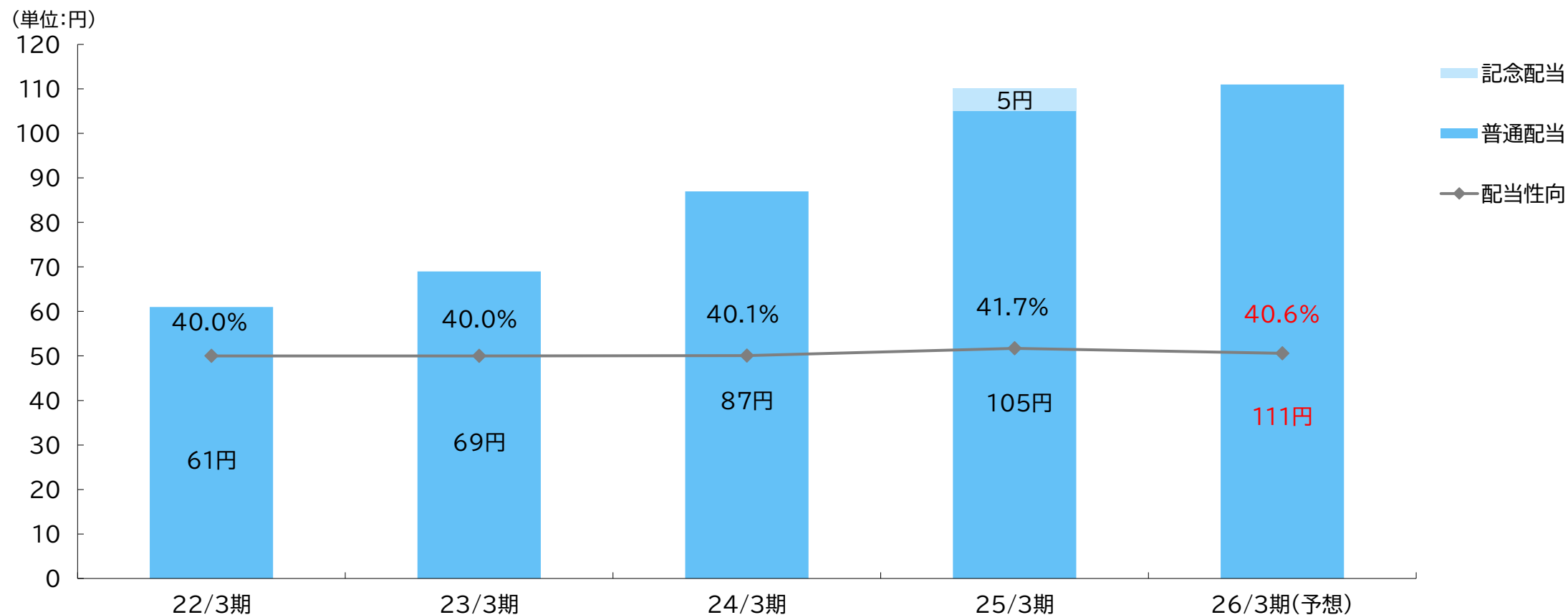
インターネットBF、社会基盤システムBF、宇宙先端システムBFが増加する見込み

ビジネス フィールド	期初の想定	予想	第1四半期状況判断	予想
モバイル ネットワーク	前期と同様の環境が継続し、減少		前期と同様の環境が継続しており、ほぼ 想定通りの展開	
インターネット	非接触IC関連の開発が堅調であること に加え、民間企業向けのDX関連の開発 が増加し、増加		非接触IC関連の開発が堅調であること に加え、民間企業向けのDX関連の開発 が増加し、想定を上回る展開	
社会基盤 システム	環境分野や福祉分野をはじめとした官 公庁向けの開発が好調であることに加 え、医療分野の大型案件や防衛分野の 開発が増加し、増加		官公庁向けの開発が増加見込みである ことに加え、防衛分野や交通分野の開発 が増加し、ほぼ想定通りの展開	
宇宙先端 システム	車両自動走行の研究開発案件や宇宙ロ ボット関連の開発が堅調であることに加 え、国の研究機関向けの開発が増加し、 増加		車両自動走行の研究開発案件が堅調で あることに加え、宇宙天文分野の開発が 増加し、ほぼ想定通りの展開	

配当の方針

配当性向40%を目安とし、前期比で每期増配の方針

2026年3月期は、1株当たり111円の配当予想とする。



ご参考: ニュースリリース一覧(2025年3月~8月)

3月10日 第3回金融データ活用チャレンジで入賞

3月12日 情報処理学会第198回ハイパフォーマンスコンピューティング・第14回量子ソフトウェア合同研究発表会にて量子コンピュータに関する大阪大学との共同研究成果について講演発表

3月13日 「健康経営優良法人2025(大規模法人部門)」に認定

3月19日 ロームのAIソリューション「Solist-AI(TM)」のエコシステムパートナーに参加

3月24日 【共同研究】量子コンピュータ・クラウドサービス向けの世界最大規模の基本ソフトウェア群をオープンソースとして公開・運用開始

4月16日 第6回「きぼう」ロボットプログラミング協議会(Kibo-RPC)に協賛

5月12日 「2025年度 世田谷ITカレッジ」開講

5月14日 ロボット開発技術探求プロジェクト「SETAGAYA Eclipse」がロボット競技エンジニア選手権CoRE-1にて「革新的アイデア賞」を受賞

5月26日 ワイヤレスジャパン×ワイヤレス・テクノロジー・パーク2025出展

5月26日 東大駒場リサーチキャンパス公開2025にて空間設計ソフトウェア「Convex Space Visualizer」を紹介

7月16日 建設・建築DX EXPO 2025 夏 東京に出展

7月22日 Quantum Innovation 2025にて量子コンピューティングに関する大阪大学との共同研究成果について発表

7月28日 大阪大学が稼働を開始する「純国産」量子コンピュータの開発に協力

7月31日 国際宇宙ステーション上の宇宙ロボット協働実証実験「ICHIBAN ミッション」に技術協力

8月 1日 「ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業／量子コンピュータの産業化のためのミドルウェア開発」に採択

8月 4日 「ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業／ロボティクス分野におけるソフトウェア開発基盤構築」の委託先に採択

8月 5日 リアルタイム膀胱内視鏡検査支援システムの開発・事業化プロジェクトに参画

8月 5日 【出展レポート】建設・建築DX EXPO 2025 夏 東京

- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものでなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。

